

2019年6月25日
日本メジフィジックス株式会社
DuChemBio Co. Ltd.

日本メジフィジックスと DuChemBio Co. Ltd. (韓国) が 新規 PET イメージング用診断剤の共同開発および販売で提携 韓国での再発性前立腺がんの新たな診断法の開発を目指す

日本メジフィジックス株式会社（以下、「NMP」）と DuChemBio Co. Ltd.（以下、「DCB」）は、この度、新規 PET イメージング用診断剤である FACBC の韓国における共同開発および販売に関する契約を締結いたしましたので、お知らせいたします。

前立腺がんの治療後に血液中の腫瘍マーカーである PSA の増加が認められ、前立腺がんの再発が疑われる患者さんにおいて、既存の CT、MRI、骨シンチグラフィなどの画像検査では、腫瘍の大きさによって検出できない場合があります。また、再発部位の特定に複数の画像検査が必要となるなどの課題もあり、これらの課題を補完する診断技術として FACBC を用いた PET/CT イメージング検査が期待されています。

NMP は、FACBC の製造、開発、販売に関する全世界での独占実施権を有しています。欧米においては、NMP の技術提携先が米国食品医薬品局（FDA）並びに欧州医薬品庁（EMA）から FACBC の製造販売承認を取得し、供給を開始しています。

今後、韓国においても前立腺がん患者の増加が見込まれることから、この度両社で合意し FACBC の韓国での早期供給を目指すこととしました。今回の契約により、DCB が韓国における FACBC の独占的供給権を取得し、韓国での製造販売承認に向けた取り組みを開始いたします。

【日本メジフィジックス株式会社 代表取締役社長 下田尚志のコメント】

「当社は、アジア全体の医療の発展への貢献を重要なミッションとして位置付けています。昨年の台湾に続き、韓国においても放射性医薬品分野で数多くの実績を有する DuChemBio 社と契約を締結できることは大変有意義なものとなります。今後、両社の密接な協力により、韓国の患者さんや医療の発展に貢献していきたいと考えています。」

【DuChemBio Co., Ltd CEO の Kim Jongwoo のコメント】

「今回の契約により、FACBC の共同開発および販売に関する権利を得たことは、当社が韓国において最初に前立腺がん PET イメージング剤の市場に参入できるという意味で、より一層有意義だと言えます。ここに、日韓のリーディングカンパニー2社による戦略的協力体制構築の第一歩が記されたことになり、今後両社で新規 PET 診断剤を開発し、上市することで、アジア太平洋地域の核医学分野の医療従事者の方々並びに患者さんに貢献してまいります。この度の提携に基づき、新たな放射性医薬品の開発、製造および販売において、一日も早く両社の協力関係が拡大することを期待しています。」

日本メジフィジックス株式会社について

日本メジフィジックス株式会社は、放射性医薬品の国内トップメーカーとして、研究開発、製造、安定供給に日々取り組んでいます。当社は、国内の核医学診断分野で培った技術力と信頼をベースに、既存事業の枠を超えた『セラノスティクス（治療と診断の融合）』、『デジタル技術の活用』、『アジアの核医学のリーディングカンパニー』の早期実現を目指しています。当社は、生命関連企業としての価値創造を継続し、社会に貢献してまいります。当社の詳細情報は <https://www.nmp.co.jp> をご覧ください。

DuChemBio Co. Ltd.について

DuChemBio Co., Ltd.は 2002 年に設立された韓国における放射性医薬品業界最大の企業で、腫瘍領域および脳神経領域における PET イメージング剤においてはゆるぎない業界トップの座にあります。核医学分野におけるパイオニアとして、当社は PET 検査用放射性医薬品の開発、薬事承認取得、製造、販売、並びに医療関係者（核医学分野並びに臨床科）へのプロモーションに従事し、疾患の早期および正確な診断に貢献しています。取り扱う製品群は幅広く、腫瘍診断剤の FDG、パーキンソン病診断剤の FP-CIT、アルツハイマー型認知症が疑われる症例に使用される Neuraceq (FBB)などがあります。なお、今回の契約締結に際しては、ベルリンに本拠を置くヘルスケア、M&A 分野のコンサルティング企業 BGM Associates GmbH の支援を得ました。

FACBC について

FACBC は、合成アミノ酸の一種を放射性同位元素である F-18 で標識した F-18 アミノ酸誘導体の化合物です。

FACBC は正常細胞に比較して腫瘍細胞に多く発現するアミノ酸トランスポーターを介して細胞内に取り込まれます。米国エモリー大学を中心に世界中で実施された多くの臨床研究の結果、FACBC は、現在腫瘍診断で幅広く使用されている PET 検査用放射性医薬品と同等の腫瘍集積性を示すうえ、骨盤腔内および脳でのバックグラウンドが低く、また炎症への集積も低いことが示唆されています。

本件に関するお問い合わせ先

日本メジフィジックス株式会社

総務人事部（広報担当）東京都江東区新砂 3-4-10 電話 03-5634-7006 FAX 03-5634-5170

DuChemBio Co. Ltd.

Kini S. Kim, Director of Planning Department (Email: kini.kim@duchembio.com) 電話 +82 2 332 4868